

ライフイノベーション(環境制御)学位プログラム(博士前期課程)

共通基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAS0511	医学概論	1	1.0	1・2	春A	NT	許 東洙, 齊木 臣二, 榎本 剛史, 丸島 愛樹, 森島 祐子, 乃村 俊史, 松本 功, 岡田 浩介, 中島 崇仁, 石津 智子	「医学概論」講義は、さまざまな臨床分野で活躍する経験豊かな医学部の教授陣が、その知識と見識を紹介し、学生は臨床医学各分野の最近情報を包括的に学ぶことができる。医学の分野でキャリアを積みた方と考えている方にも、単に理解を深めたいと考えている方にも、このレクチャーシリーズは学生にとって最適な機会です。	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) ・受講にあたり、所属学位プログラム(専攻)は問わないため、誰でも受講可能。
OAS0801	レギュラトリーサイエンス	1	1.0	1・2	春AB	NT	フォンテス セシル ルギヤル, レイジ アンドリュウ パーヅニー, フェルドウシ フアラハナ	レギュラトリーサイエンスは、科学技術基本計画において、「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づき確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会とも調査の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。本講義においては、日本およびヨーロッパにおいて、レギュラトリーサイエンスが、医薬品および医療機器の有効性、安全性、質の保証において果たす重要な役割について、概説する。	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
OAXA002	創薬概論	1	1.0	1	春A	月1,2	宮前 友策, 吉富 徹, 佐山 裕行	製薬企業等において、新薬を上市するまでにどのようなプロセスを経る必要があるのか、創薬の戦略について学習する。また、創薬研究に使用されるモデル生物の特徴や、感染症に対するワクチンの開発と実用化について理解を深める。	英語で授業。 オンライン(対面併用型)
OAXA003	食品科学概論	1	1.0	1	春A 春B	集中	市川 創作, 小林 功, 山本 和貴, 池羽田 晶文, 川崎 晋, 日下部 裕子, ダス ネヴェス マルコス アントニオ	In this course, students will learn about food science based on physical, chemical, biochemical, biological, and engineering approach, from the fundamental level to cutting-edge applied science and technology. After a general overview of the course, the lecture will be on “food processing for ensuring food safety”. Food is processed to maximize its quality and to minimize its food safety risks among which microbial hazards mostly cause severe poisoning risks. The lab tour at the Institute of Food Research, NARO will focus on food engineering, food processing, food analysis, food safety, and food functionality. The study of deliciousness deals with a broad overview of taste, including the definition of taste, the classification of taste substances and the history of their discovery, and the structural functions of taste receptors. To quantify safety and deliciousness, scientific analysis is essential. Spectroscopic methods for quick and simple measurements and modern taste sensors will be explained. The last lecture deals with processing before and after food ingestion, especially emulsification, emulsion characterization, and in vitro gastric digestion.	英語で授業。 対面(オンライン併用型) The course schedule will be announced on manaba.
OAXA004	バイオリソース概論	1	1.0	1	秋A	月1,2	高橋 真哉, 大熊 盛也, 吉木 淳, 三輪 佳宏, 榎屋 啓志, 川勝 泰二, 綾部 信哉, 鈴木 健大, 野崎 晋五	本講義ではライフサイエンスイノベーションの推進におけるバイオリソースの重要性とバイオリソースセンターの役割について理解を深めることを目指す。そのために動植物個体、細胞、微生物リソース、及び関連技術、付随情報について、スペシャリストによる講義を受ける。	英語で授業。 対面(オンライン併用型)
OAXA005	自然史概論	5	1.0	1	秋AB	集中	高橋 真哉, 細矢 剛, 中江 雅典	動物学・植物学・人類学・地学における研究例のいくつかを紹介し、自然史研究について概観できるようにすることを目指す。各分野での概論を講義した後、動物学分野では、動物の進化・分類と多様性について講義を行う。植物学では、植物の進化・分類と多様性について講義を行う。人類学については、人類の進化・分類と多様性について講義を行う。地学については、地球科学、岩石の形成、分類と多様性について講義を行う。それぞれの講義の後、実物の標本についての観察を見学実習にて行い、その理解を深める。	英語で授業。 対面 The course schedule will be announced on manaba.

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAXA006	バイオインフォマティクス概論	1	1.0	1	秋A	集中	櫻井 鉄也, 二村 保徳, 叶 秀彩, 尾崎 遼, 青木 聡志	バイオインフォマティクス分野を支える主要な関連分野である数理アルゴリズム、機械学習、トランスクリプトミクス、メタボロミクス等における基本的な事項を学ぶ。	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) 英語で授業、レポートも英語のみ可。
OAXA024	ライフイノベーションチーム型演習(基礎)	2	1.0	1	春ABC	金1	神谷 俊一, 宮前 友策	In this course, students will learn how innovations in life science field have been brought about from the triggering discovery to their invaluable contributions to human life in the form of available products. Students obtain basic or advanced knowledge through lectures, but they also have to participate in group discussion on various topics that need critical and creative thinking from global perspectives. By playing a role as a discussor, speaker, or moderator in the class, students will be trained to have improved skills in communicating with other people from different fields or different countries.	英語で授業。 対面 主専攻必修科目。
OAXA025	ライフイノベーションチーム型演習(発展)	2	1.0	1・2	春ABC	金2	神谷 俊一, 宮前 友策	Following the course in Spring semester, this Advanced course deals with deeper knowledge in creating new research projects. As in the Basic course, group discussion on various topics that need critical and creative thinking from global perspectives is an important part of this course. By playing a role as a discussor, speaker, or moderator in the class, students will be trained to have improved skills in communicating with other people from different fields or different countries. The mandatory final presentations by all the students should reflect their capabilities and enthusiasm to find important challenges human beings face (or will face) and to create an original project to overcome such challenges.	英語で授業。 対面
OAXA031	博士前期ライフイノベーションセミナー	1	1.0	1	春A 春B 秋B	集中	ゴードینگ コリン, フィリパコ ポロス パナギス, メラー ジェーン, オニール エリック, ガードハンセン マッズ, ステイングリムツソン エイリークル, ヒメネス カストディア ガルシア, ラリュー ライオネル, ホホワイトリ チャード, マルゲート-ジャン タック デル フィーヌ, ダニエラ ロブレス, 平川 秀彦, フェルドウシ ファラハナ	本授業では、海外の協力教員が、ライフサイエンスにおける基礎から最先端の研究トピックに関するセミナーを行う。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、「どのように経歴を伸ばすか?」や「論文を書くこと、審査プロセス、エディターやレフェリーの見方からみえるもの」について学び、研究者の資質、研究者に必要なプレゼンテーション、ディスカッション、コミュニケーション能力などを学生が獲得することを目的とする。	英語で授業。 対面 対面(オンライン併用型) The course schedule will be announced on manaba.
OAXA043	修士力実践プログラム	3	1.0	1	通年	応談	平川 秀彦	修士号取得者を雇用する企業、公共機関、研究機関、またはそれらをメンバーとする協会などにおいて、実務研修やロールプレイなどを通して、組織の戦力となるための実践的な力を身につけ、職務上の特定の場面において修士力をどのように効果的に活かすかを学ぶ。	対面

共通専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OAXA12F	ライフィノベーション修士研究I	2	3.0	1	秋学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	修士研究の実施にあたり、最新の専門知識だけでなく研究動向を理解し、研究目的を明確化する。関連研究や最新の研究論文の調査に基づき、具体的な研究計画を立てる。文献調査の結果や研究進捗についてプレゼンテーションやグループディスカッションを行い、俯瞰的・分野横断的な視点を養うだけでなく、必要に応じて研究目的や研究計画を修正する。	対面(オンライン併用型)
OAXA12S	ライフィノベーション修士研究I	2	3.0	1	春学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	修士研究の実施にあたり、最新の専門知識だけでなく研究動向を理解し、研究目的を明確化する。関連研究や最新の研究論文の調査に基づき、具体的な研究計画を立てる。文献調査の結果や研究進捗についてプレゼンテーションやグループディスカッションを行い、俯瞰的・分野横断的な視点を養うだけでなく、必要に応じて研究目的や研究計画を修正する。	対面(オンライン併用型)
OAXA13F	ライフィノベーション修士研究II	2	3.0	1	秋学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	ライフィノベーション修士研究Iで立案した計画に基づいて、研究スキルを修得しつつ、研究の進捗について議論していく。また、最新の研究動向のさらなる理解に努め、プレゼンテーションやグループディスカッションを通して、自身の研究と他の研究との関連性を見出し、俯瞰的・分野横断的思考力を養う。1年目の研究成果を総括し、今後の研究計画について評価・検討する。	対面(オンライン併用型)
OAXA13S	ライフィノベーション修士研究II	2	3.0	1	春学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	ライフィノベーション修士研究Iで立案した計画に基づいて、研究スキルを修得しつつ、研究の進捗について議論していく。また、最新の研究動向のさらなる理解に努め、プレゼンテーションやグループディスカッションを通して、自身の研究と他の研究との関連性を見出し、俯瞰的・分野横断的思考力を養う。1年目の研究成果を総括し、今後の研究計画について評価・検討する。	対面(オンライン併用型)
OAXA22F	ライフィノベーション修士研究III	2	3.0	2	秋学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	ライフィノベーション修士研究IIにおいて検討された研究計画に基づいて、研究成果を取りまとめしていくことを意識し、研究の進捗を議論していく。研究発表会やジャーナルクラブにおける発表や議論を通して、最新の研究知識だけでなく研究動向の理解に努め、俯瞰的・分野横断的思考力だけでなく批判的思考力を養う。また、研究成果の解釈について議論し、研究のとりまとめに向けた研究計画を評価・検討する。	対面(オンライン併用型)
OAXA22S	ライフィノベーション修士研究III	2	3.0	2	春学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	ライフィノベーション修士研究IIにおいて検討された研究計画に基づいて、研究成果を取りまとめしていくことを意識し、研究の進捗を議論していく。研究発表会やジャーナルクラブにおける発表や議論を通して、最新の研究知識だけでなく研究動向の理解に努め、俯瞰的・分野横断的思考力だけでなく批判的思考力を養う。また、研究成果の解釈について議論し、研究のとりまとめに向けた研究計画を評価・検討する。	対面(オンライン併用型)
OAXA23F	ライフィノベーション修士研究IV	2	3.0	2	秋学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	修士研究の取りまとめに重点を置き、研究進捗の議論や文献調査を行う。引き続き研究発表会やジャーナルクラブにおける発表や議論を通して、修士にふさわしい研究能力を修得し、研究成果を取りまとめる。研究成果の発表と総括を行い、修士研究を完成させる。	対面(オンライン併用型)
OAXA23S	ライフィノベーション修士研究IV	2	3.0	2	春学期	随時	ライフィノベーション学位プログラム博士前期課程研究指導教員	修士研究の取りまとめに重点を置き、研究進捗の議論や文献調査を行う。引き続き研究発表会やジャーナルクラブにおける発表や議論を通して、修士にふさわしい研究能力を修得し、研究成果を取りまとめる。研究成果の発表と総括を行い、修士研究を完成させる。	対面(オンライン併用型)

専門科目(環境制御)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAXA601	生育環境と機能性成分	1	1.0	1・2				有用成分を含む薬用植物の発見とその栽培は、天然物質由来の創薬と産業化において重要な課題である。また、土壌、乾燥度などの環境条件は機能性成分含有量の決定因子ともなる。本授業では薬用植物中の天然物化学、生物活性物質の探索、土壌環境と機能性成分の関係、熱帯感染症治療薬の探索、薬用植物の細胞培養、植物工場における栽培、環境変動下における環境ストレス要因の植物への影響、乾燥地・塩性土壌での植物の生態系、およびそれらの実例について紹介する	西暦奇数年開講。 英語で授業。 2026年度開講せず。 オンライン(対面併用型) Combination of Online (Asynchronous) and Face-to-face
OAXA602	バイオマス科学	1	1.0	1	秋B	集中	高橋 真哉, 中嶋 光敏, バーカート マイケル	本科目では次世代の再生可能資源と目されているバイオマス素材の中で、特に藻類バイオマスに焦点をあてて、有用な機能・成分がエネルギー、食料、健康および生活保障にどう活用される可能性があるのか、さらにこれらの機能・成分のビジネスの現状と将来展望について解説し、議論する。	英語で授業。 対面(オンライン併用型) The course schedule will be announced on manaba.
OAXA603	水環境と生命科学	1	1.0	1	春C	水1,2	原 啓文, 辻村 真貴, 内海 真生, 高橋 真哉	水は生命の生存条件を決定する要素の一つであり、地球上を循環している。したがって、水環境の動的理解は生物資源を制御する上で重要な課題の一つである。また、環境ホルモンなど水資源の安全性を脅かす物質によるリスク評価の生物学的手法が注目を集めている。本講義は水循環、気候変動、物質拡散、成層水塊の物理、物質輸送などの自然の水環境の動態解析、および環境ホルモンとその生物学的評価手法に関する理論および実践に関わる話題を取り扱う。	英語で授業。 対面 Combination of Online (Asynchronous) and Online (Synchronous)